

ニュースレター

4号



綾部市の宝の1つである
ヒメザゼンソウ
写真提供：水源の里光野

CONTENTS

- きょうと生物多様性センター運営協議会 ごあいさつ —2
- 保全現場からお届け！京都府内の団体にインタビュー！ —3
- 「きょうと☆いきものフェス！2025 in 京都府立植物園」レポート！ —4
- 令和7年度下期活動トピックス —6
- パートナーシップ協定締結状況・活動報告 —8



京都府域に生息する 植物の多様性を保全するために

戸部 博

京都府立植物園は一昨年開園100周年を迎えました。それから1年、また1年と新たな100年が刻まれつつあります。植物園の新たなミッションの1つとして加わったのが、植物多様性の保全に取り組むというものです。世界には、これまでに358,226種の被子植物（花をつくる植物）が確認されています。一方、日本国内では、日本分類学会連合が、今から25年も前の2002年12月に、日本に生息する被子植物数を5,016種と公表しています。日本には日本にしか生息していない固有種が多く、その数は2,390種で全体の約48%にあたります。日本の植物、特に固有種の保全は世界の植物の保全のためにも大切です。

あいにく当植物園には研究部門がありません。しかし、きょうと生物多様性センターの目的と歩調を合わせ、植物園から次世代につなぐ京都の植物多様性に関する情報の収集・発信を目指そうとしています。そのため、植物園内の企画系の職員が保全に向けた調査研究活動を担当し、まずはその出発点となる基礎資料をまとめるため、現在、京都府植物誌の編纂に取り組んでいます。正確な生息植物の確認のために、現地調査を伴う標本作成が欠かせません。そのため、植物園では生息地の確認と標本作成のために、京都植物同好会や近畿植物同好会の会員のみなさんに助力を願う一方、[現地調査チーム]として活動していただけるボランティアの方々を募集しています。

京都府域には、2015年の公表されたデータによれば2,403種の被子植物の記録があります。そのうち2022年のレッドリストによると788種（約33%）が何らかの危険度で絶滅の危機にあります。この割合は世界の植物の絶滅の危機の割合にほぼ匹敵しています。

本ニュースレターではちょうど綾部市の水源の里 光野にみつかったヒメザゼンソウが紹介されています（3ページ掲載）。この植物は、京都府では絶滅寸前種というカテゴリーに入れられ、個体数が少なく保全なしには絶滅してしまいます。日本の固有種ではなく、朝鮮半島からそれに続く中国北部にも分布しています。同じような分布域をもち、よく似た植物にザゼンソウがあります。こちらは1～3月の寒い時期に開花し、発熱して訪花昆虫を呼び寄せます。ところが、ヒメザゼンソウは暖かくなった6～7月に開花し、発熱することなく昆虫を呼びます。暖かいので発熱しなくても昆虫を引き寄せる臭いを出しているのでしょう。ヒメザゼンソウは種子のほか、根茎を伸ばして繁殖することが知られています。綾部市の個体は、もしかしたら花が無く種子ができなくても繁殖するクローンの可能性もあります。保全のためには、他の自生地の花と交配させて種子をつくるなど工夫が必要になるかもしれません。実は植物園にもヒメザゼンソウが生息しています。植物園では、京都府域内の絶滅危惧種のうち12%ほどを栽培していて、これからはその数を増やして多様性の保全に力を入れていきたいと考えています。



きょうと生物多様性センター運営協議会
正会員 戸部 博

青森県青森市生まれ。青森県立青森高等学校卒、東北大学理学部卒、同大学院博士課程中退。千葉大学勤務後、京都大学に移り定年まで勤務。若いころに2年間米国ミズーリ植物園で研究生生活を送る。現在は京都大学名誉教授。専門は、植物分類学（世界中のさまざまな植物の進化を研究）。日本植物分類学会 会長、日本植物学会 会長等を務め、2018年4月から京都府立植物園 園長。



ザゼンソウ
Symplocarpus foetidus

オモダカ目サトイモ科の湿地に自生する多年草。早春に肉穂花序（にくすいかじょ）が熱を持つことで周囲の氷雪を溶かし開花する。発熱は25度にもなり雪の中から他の植物に先駆けて開花することでこの時期の少ない昆虫を誘い受粉の確率を上げているとされる。

参考：京都府立植物園HP、「京都府立植物園 見ごろの植物情報 平成24年2月24日」
<https://www.pref.kyoto.jp/plant/1329790551886.html>
(2026年1月30日確認)



保全現場からお届け！

ヒメザゼンソウを守る、綾部市内の団体にインタビュー！

綾部市でヒメザゼンソウの保全活動に取り組む「水源の里 光野（すいげんのさと みつの）」に、

当センターのコーディネーターがインタビューに伺いました！

～回答いただいた皆さまのご紹介～



左から 福井さん、吉川さん、澁谷さん、中野さん。中央のパネルはヒメザゼンソウの花。光野公民館前にて撮影。

～会の連絡先～

HP



Face
book



©水源の里光野

ヒメザゼンソウ

Symplocarpus nipponicus

オモダカ目サトイモ科の植物。京都府指定希少野生生物、絶滅寸前種（京都府RL2022）。

左は開花写真。中央の肉穂花序の長さは10mmほど。

詳しい生態はこちら→



～水源の里 光野の始まりと、ヒメザゼンソウとの出会い～

福井さん：当会は、過疎地対策として綾部市が進めている「水源の里事業」に、光野地区が2013年に参加したことから活動が始まりました。活動の軸となるものを模索していたところ、光野には大太鼓や神社、お寺といった文化資源に加え、豊かな自然もあることから、そういった特徴を生かすことが出来ないか、地域の方と話し合っていました。

その中で、神社の上流に大きな木があるのを聞き、メンバー数名で見に行ったところ、その圧倒的な大きさに驚きました。京都府に調査を依頼した結果、幹周17.48m、樹高33mのカツラで、京都府内で3番目の巨木であることが判明しました。

この大カツラの取材で地元新聞が訪れた際、説明している足元に小さな花が咲いているのを見つけたのが2014年7月のことです。

地元で仏像を彫っている渋谷さんが、「ゼンソウみたいやなぁ」と気づき、舞鶴市の植物に詳しい方に確認をお願いしたところ、「ヒメザゼンソウ」であることが分かりました。これが、ヒメザゼンソウとの出会いです。

当時、綾部市内にヒメザゼンソウが生息していることは知られておらず、京都府自然環境保全課に調査を相談しました。その帰り道、ご縁のあった京都府立大学の桂明宏先生に連絡したところ、「ぜひ調べよう」ということになり、桂明宏先生・大迫敬義先生・武田征士先生を中心に本格的な調査が始まりました。



冬芽



果実が裂開し、中の種子が飛び出ている様子

2025年12月の様子

このような希少な種が光野に自生していることは地域の宝であることから、先生方と相談の上、2017年から一般公開し、観察会や府立大学と連携した自然大学などを開催してきました。

～保全に向けて～

ヒメザゼンソウは、かつて約100株が開花していましたが、近年は減少し、2024年は10株の開花でした。原因は明確ではありませんが、シカの食害やイノシシの掘り返し跡が確認されています。そこで、2025年からは京都府の支援を得て、防獣ネットの設置を開始しました。今後、本格



防獣ネットの様子

的な保全活動に取り組んでいきます。



先端にかじられた痕跡のある冬芽

※ヒメザゼンソウ生息地は私有地のため許可のない侵入はお断りしています。ヒメザゼンソウに関するお問合せは「上林いきいきセンター」までお願いします。

～ヒメザゼンソウの魅力と光野の魅力～

インタビュアー：ヒメザゼンソウの魅力を教えてください。



福井さん

地面から“ぴょこっ”と出ている小さな姿がかわいらしい！ちょっと色黒なところも。笑

華やかさはないから、「ワー！」とはならないけどね。笑



中野さん

ヒメザゼンソウは地味でマニアックな植物だからねえ。若い人に刺さるかどうか…。



吉川さん



移住された
日誌さん

看護師をしているのですが、植物観察が好きで、光野のことはネットニュースで知りました。観察会に参加した際、まず車から見えた光野の景色に一目ぼれ！そして、ヒメザゼンソウがつつましくてかわいいんです。

ただ、田舎のため移動や医療が大変ではないですか？と地元の方に聞いたところ、「コミナス（コミュニティナース）」の存在を教えてください、やってみよう！と思いました。そこから面接・採用まであっという間に進み、移住が決まりました。地域の皆さんが本当にやさしく、人にも自然にも癒されています。光野はお宝がいっぱいです！

光野には熊野十二所神社や稲荷神社、大太鼓などの文化もある。稲荷神社は、「キツネ憑きをシキミに移し、伏見稲荷へお参りした」という民話が由来。大太鼓（右）は明治時代に大きなケヤキから作られ、年に1回の芋煮会で披露される。また、光野峠では年2回の整備活動にボランティアを募集しているので、興味のある方はぜひ来てほしい。



皆さん少し悩まれている様子。そこで、ヒメザゼンソウをきっかけに移住された方にもお話を聞きました。

京都のいきもの・自然を知ろう！体験して楽しもう！

今年も
湯本センター長の
開会宣言で開幕！



きょうと★いき 2025 in

いきものフェスとは

自然に関わる活動の紹介や交流を通して、生物多様性への理解を深めることを目的に、きょうと生物多様性センターが主催する一大イベントです。2025年は開催地を拡大し、6月に北部版いきものフェスを「うみほし公園」で初開催しました（詳細はニュースレター3号をチェック！）。府立植物園での開催は今回で3回目となります。当日は、約90の団体・個人の皆さまにご出展・ご発表いただき、来場者は12,000人を超えました。

背景写真：開会宣言の様子



今年も当センターもブースを出展。昨年の「推しのいきもの総選挙」1位のムササビをテーマにグッズを制作し、スタンブラリーやクイズラリーの景品として配布しました。

展示の様子

保全団体、企業、学校、個人など多彩な出展者が、地域の生きものや活動を紹介しました。魚やカメの生体展示、昆虫やコウモリの標本展示、グッズ販売、市民参加型調査など、多様なブースが会場を盛り上げ、出展者の熱意が随所に感じられました。

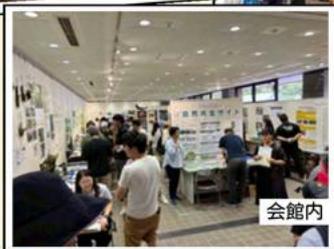
ブース出展の様子（一部のみ掲載）



大芝生地



植物園会館前



会館内



京都府立北嵯峨高等学校



京の川の恵みを活かす会



サカナ少年



関西ケリ研究会

特別企画

フォトコンテスト ～いきもの目線で見ると京都の自然～

今年のサブテーマに合わせ、有志の出展者に“推しの生きもの”とその生息環境を紹介していただくフォトコンテストを実施しました。来場者のシール投票で、今年の1位は「モリアオガエル」に決定。モリアオガエルは来年度の「きょうと☆いきものフェス！2026」のマスコットキャラクターになる予定です。お楽しみに！



モリアオガエル

（写真提供：NPO法人おおつ環境フォーラム ビオトープづくりプロジェクト、
ビオトープづくりプロジェクト）

投票結果（総投票数1,684票）：第1位 モリアオガエル（377票）/NPO法人おおつ環境フォーラム ビオトープづくりプロジェクト、
第2位 ミツバチ/京都府企画統計課（138票）、第3位 サンショウクイ/比叡平里山倶楽部（60票） 投票いただいた皆様、ありがとうございました！

ものフェス！ 京都府立植物園



もっと知りたい
いきものフェス！

ニュースレター
1・2・3号

HPでの開催報告



レポート！

活動発表会

園児から大学生、京都で活躍する保全団体まで、全26組による活動発表会を開催しました。同会場では、活動交流会やポスター発表も行われました。



園児の身近な生きもの調べから、高校生の先進技術を使った発表まで多彩な内容が並びました。時に専門家から学生へ鋭い質問が飛ぶこともあり、年代やフィールドを超えた交流の場になりました。



1日目夕方にはどなたでも参加できる活動交流会を開催し、鈴木康久先生（京都産業大学教授）の進行で、「好きな生きもの」と「つながり」について話し合いました。



2日目は6団体のポスターセッションを開催し、当センターコーディネーターのポスターも展示しました。

ワークショップ& 観察会

出展者のみなさんによるワークショップや観察会が多数開催されました。ワークショップでは、ヤゴの抜け殻標本づくり、竹蛇籠づくり、植物を使ったスタンプや笛づくりなど、多彩な体験ができました。また、植物園ならではの環境を活かし、植物・野鳥・キノコ・カタツムリなどの観察会も実施されました。



さすてな京都



NPO法人 やましろ里山の会



日本野鳥の会 京都支部



noi-Kyoto



Toi&森 -toi to mori-

関連イベント

キミもおちばの探検隊 in けいはんな記念公園

講師 けいはんな記念公園
景観演出部 稲本雄太
落ち葉探偵 メンバー



丸くてかわいい落ち葉を鼻に近づけると…とても甘い香り！これはカツラという植物の落ち葉です。

9月には、落ち葉・土・土壌生物をテーマにした「おちばの探検隊」を、けいはんな記念公園で開催しました。公園内の水景園を舞台に、野外観察、クイズ、土壌生物の観察会を実施しました。



デジタル顕微鏡での観察



落ち葉探偵さんからのクイズです。「ダンゴムシの足は何本？」
正解は14本！皆さんご存知でしたか？

収集

お近くで、チョウは見かけますか？

情報をお寄せください。

京都府生物データベースの昆虫綱の登録件数は、2026年1月末現在で109,798件となりました。その中でチョウ目は2番目に多く、チョウ目の中ではチョウ類がその8割近くを占めています。京都府自然環境目録2015の記載では、チョウ目54科1,030種中、チョウ類は5科117種に過ぎませんが、人々が最も親しみをもつ生物であることが、登録数の多さにつながっていると思っています。

特に、町中でも見かけることが多いアゲハとモンシロチョウ（写真）の登録状況をまとめ、確認年別にグラフにしてみました（図1）。登録数はアゲハ、モンシロチョウともに1,000件程度ですが、年によって登録件数が大きく異なっています。各年の発生量がこんなに違うのではなく、十分なデータが収集されていないのです。市町村別でも整理してみました（図2）。これらのチョウ類は約百年前の記録にも存在し、「京都市内では普通種、多い」とあります（*飯田，1935）が、私どものデータベースでは過去の記録はとても少なく、また、地図上には空白の市町村が存在しています。今も昔も普通種と思われるモンシロチョウやアゲハでさえ、生息についての正確な検証はまだ難しい状況にあります。正確な記録を積み重ね、生物多様性保全に資する資料とするためには、多くの人の観察記録が必要です。かくいう私も、アゲハとモンシロチョウの写真を探すのにたくさんの時間を要しました！普通種って、なかなか記録に残さないものです…。

まもなくチョウをよく見かける季節が到来します。ご近所でチョウを見かけたら、ぜひ、センターにご一報をお願いします。データの基本、日付と地名に写真も添えていただくと尚、ありがたいです。今の京都の生物事情がしっかり反映できるデータベースづくりをめざしています。



アゲハ(左)とモンシロチョウ(右)

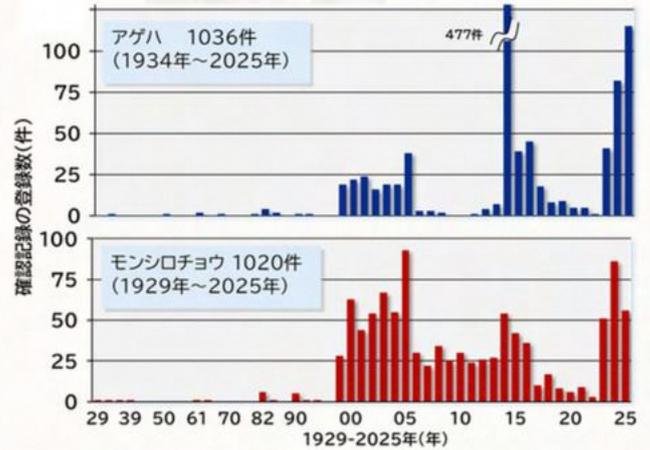


図1. 年別のチョウ類記録の推移(1929-2025年)

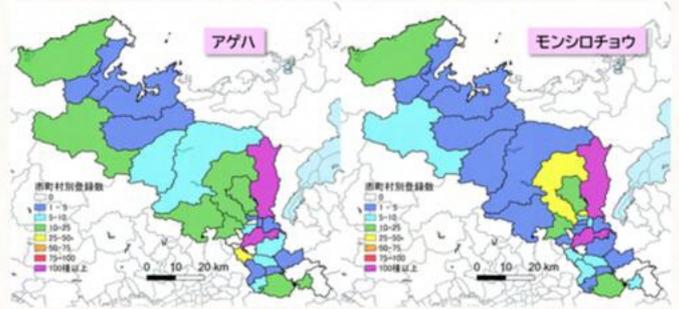


図2. 京都府内市町村別データ登録件数

*参考文献：飯田信三（1935）京都市内に於ける蝶類分布の状況，昆虫界，3：9。

利活用

森・里・街・川 のつながりを結び、 京都のみらいを紡ぐ

令和6年度から「森・里・街・川」をテーマに、つながりを創出する流域連携事業を実施しています。11月には、各エリアで活動する方々と「里山」をテーマに意見交換会を行いました。当日は龍谷大学先端理工学部教授の宮浦先生に「里山としての龍谷の森のこれまで」について話題提供いただき、里山に関わる方々と「どんな里山を目指したらよいのだろう？」などをテーマに話し合いました。



龍谷の森は2024年に自然共生サイトに登録された大学保有林です。地域の方や学生が、里山や研究フィールドとして利用しています。



それぞれの活動の考えや課題など、様々な意見が出ました。お互いの活動を知る交流の場となり、流域連携事業が皆様のつながりを生むきっかけとなれば！と期待しています。

利活用

企業活動と生物多様性について講演

11月に中小企業向けのセミナーにて、新たなビジネス展開を目指す企業様に向けて、講演をしました。脱炭素と切り離せない関係にある生物多様性というテーマについて、「なぜ今、企業は生物多様性に取り組むことを求められるのか」について話しました。



利活用

左京区民ふれあいまつりに出展



(右) 講師の吉武氏作のイラスト

今年のふれあいまつりのテーマは防災・減災。当センターも参加し、交流オフィスにてワークショップとポスター展示をしました。「河川環境」に着目し、身近な鴨川に生息する魚の釣り遊びや塗り絵を取り上げました。生きものの目線でも、河川環境を考えるきっかけとなりました。

継承

文化と生物多様性

本事業は三洋化成社会貢献財団のご支援を受けて実施しました。

「染色」と「茶の湯」をテーマに、文化と生物多様性の関わりについて学び、体験するプログラムを開催しました。



アトリエシムラの協力で染色体験を実施。同じ素材を使っても染め手によって風合いの異なるムラサキ色のハンカチが完成しました。



前列左より三島代表、佐々木宮司、志村代表、後列左より太田氏、平元氏、湯本センタ一長。

10月、紫野今宮神社（京都市北区）にて、希少植物のムラサキを使った染色のワークショップを午前に開催しました。午後からは今宮神社（佐々木宮司）・アトリエシムラ（志村代表）・榊ミシマ社（三島代表）の3者による鼎談を実施しました。

鼎談では、自然の生命を色として現出させる染めのお話からAI時代の神社の役割、人や自然が共にいきることとは？など、テーマが多岐に渡りました。後半はムラサキとその保全活動について、武田薬品工業（京都薬用植物園（太田氏））とムラサキノハレ実行委員会（平元氏）よりお話をいただきました。

紫野 今宮神社 植物の生命と色

「染めの手仕事を通じて植物の「いのち」を感じるプログラム」



茶庭掃除の成果
Before After
地衣類の専門家・山本好和先生による解説。地衣類の独特な生態に会場から驚きの声が上がりました。

掃除の後はお抹茶をいただきながら、濱崎館長のお話を伺いました。二期一会の茶席の空間は、まるで映画のキャスティングを決めていくように準備するもの」という言葉が印象的で、一同深く聞き入りました。



江戸時代の学問所である有斐斎 弘道館。当時と同じく、明かりを使わずにお茶をいただきました。

有斐斎 弘道館 ”茶の湯”と生物多様性

生物多様性において私たちができること

継承

小学校への学習支援



京都市立御所南小学校で講演を実施！

11月、3年生の授業でフジバカマを題材に「生きものつながり」について講演しました。生物多様性とは何か、人も自然の一部であり、私たちは生物多様性の恵みに支えられて暮らしていることをお話ししました。



約90人の小学3年生が熱心に話を聞いてくれました！



色んな生きもの・環境がつながり合って私たちは生かされています。

子どもたちから「自分が思っていたよりも生き物がピンチになっていることに気づきました。今、私にできるフジバカマを守ることをさっそく始めようと思います」といった、嬉しい振り返りの言葉も聞くことができました。

継承

関連施設との連携

京都府立植物園ではほぼ毎月、専門家によるサイエンスレクチャーを開催しています。当センターは令和6年度から共催として参画し、令和7年度11月の講演企画を担当しました。



「ある日森を歩いていたらキノコと出会った動物とキノコの話」
金沢大学 都野 展子先生

京都府立植物園との協働 サイエンスレクチャー



フジバカマとは？ *Eupatorium japonicum*

秋の七草のひとつとして親しまれてきた植物で、平安時代の京都の文化と深く結びつき、「万葉集」や「源氏物語」にも登場します。しかし河川改修や土地利用の変化により減少し、野生では絶滅寸前種（京都RL2022）に指定されています。京都ではかつて身近であったフジバカマを未来へつなぐため、保全・再生に取り組んでいます。



フジバカマは渡り蝶のアサギマダラが好む花でもありません。吸蜜をする様子。

「きょうと生物多様性パートナーシップ協定」



締結状況・活動報告



本制度の詳細はこちら↑

第1号 令和5年10月協定締結

(公財) 日新電機グループ社会貢献基金

10月、日新電機グループの社員やご家族の皆様と、琴引浜の鳴り砂を守る会と協働で5回目となる保全活動を実施しました。午前は、砂浜から松林のゴミを袋いっぱい拾い、昼食には琴引浜まんまくらぶ謹製のサザエごはんとキノコ博士お手製のキノコ汁をいただきました。午後は汗だくになりながら松林の枝払いを行いました。



第2号 令和6年5月協定締結

株式会社 京都環境保全公社

ニホンジカの食害等で危機的状況にある京都市左京区花脊地域に生育するチマキザサの保全について、「チマキザサ再生委員会」(地元・大学・行政などで構成)が取り組む防鹿柵の設置やササの移植活動、啓発活動等への支援をいただいています。



第3号 令和7年1月協定締結

京都中央信用金庫

京都中央信用金庫の職員の皆様と、今年度2回目となる鴨川の外来植物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動を10月に実施しました。あたり一面がオオバナミズキンバイの中、胴長を着て2時間泥まみれになりながら根っこから取り除きました。過去最高の約1,110kgを駆除しました。



第4号 令和7年4月協定締結

株式会社 ティー・エム・ティー

センターが実施する子ども向けの環境学習や「フィールドソサイエティー」、「京都自然教室」の活動を支援していただきました。また10月には株式会社ティー・エム・ティーの社員やご家族の皆様が、「特定非営利活動法人自然観察指導員京都連絡会 (noi-Kyoto)」とともに花脊地域での特定外来生物オオハングソウの駆除活動を実施しました。



第5号 令和7年8月協定締結

株式会社 GSユアサ

自然共生サイトに認定された木津川市「かせやまの森」での里地里山の保全活動や、「京の川の恵みを活かす会」が実施する鴨川をはじめとする淀川流域における天然アユの遡上に向けた魚道設置へ支援をいただきました。



問合せ先

【本部オフィス】 京都府立植物園 植物園会館内 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町

【交流オフィス】 左京区役所2階⑭番窓口 〒606-8511 京都市左京区松ヶ崎堂ノ上町7番地の2

開館日 毎週月曜日、水曜日、金曜日 午後1時～午後5時 (祝日・休日・年末年始を除く)

☎ 電話番号：075-354-5275 (本部) 075-744-1107 (交流)

✉ メール：contact@kyotobdc.jp

発行：きょうと生物多様性センター 令和8年2月

HP



メルマガ



X (旧Twitter)



Instagram



賛助会員の皆様：(株) SCREENホールディングス、三菱自動車工業(株) 京都製作所、

武田薬品工業(株) 京都薬用植物園、日本板硝子(株)、(株) バイオーム、(株) WELLUP、(株) グリュックス、個人会員3名 厚くお礼申し上げます。